
とある元素の上条龍夜

seireiou

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある元素の上条龍夜

【Nコード】

N33440

【作者名】

seireiou

【あらすじ】

これは天才ニートが「とある魔術の禁書目録」に転生するお話です。

主人公最強、転生、原作破壊等が嫌いな人は見ないことをお勧めします。一応処女作なのでできれば間違いなどを注意してくれると助かります。投稿はすごく遅いです。感想があれば書いてくれるとうれしいです。

とある転生と学園都市（前書き）

さうそく第1話。 作者はどへたなので・・・長い目でみてください。
い。

とある転生と学園都市

さて・・・ひとまずここはどこだろう？

パソコンを見ていたら白い世界に来てしまった。

・・・ってことは夢か・・・？

だがここまではつきりとした感覚に痛み・・・

これはいつて「おい、そこのお前」

「ん？誰だ人の夢に入ってくるやつは」

「バカいうな、ここは天界の端だ」

変な格好・・・というよりどっかの偉人のような姿をしている青年がこちらにやってきた。

「天界の端？ってことは俺は死んだのか？」

「変に物分りがいいな。まあそういうことだ」

「あたりまえだ、このおかしな感覚に変な空間だ。ありえるかもしれない」

そして青年はニヤリと笑いこういった

「さすが俺が選んだやつだな」

「・・・選んだ？どういうことだ？」

選んだ・・・俺の脳が騒ぐというより明らかに興奮している。想像はつく、もしかしたら・・・いやこれはやはり・・・

「暇だったから新しい世界に転生させてやるつとということだ」

よしならばどこの世界にしよう。これか・・・これか・・・いいやこれか・・・

「おい、聴いているのか？」

「ん？ああ・・・で？どこへいける？俺はだな・・・」

「まあ、おちつけ・・・いけるのは元の世界以外ならどこでもいいぞ」

「そうか・・・それで、こういう系の二次創作ならなにかスキルをくれるんじゃないのか？」

「二次創作？・・・まあ、どうでもいいが5つくらいならいいぞ。できるかぎりかなえてやろう。それとお前の脳の中がパニックになつてるぞ？すこしは落ち着いたらどうだ？」

「おつと・・・わるい・・・なら俺は【とある魔術の禁書目録】の世界へいきたい」

「わかった・・・スキルはどうする？」

「そうだな・・・一つは超能力だ・・・内容は元素を完璧に操れるようにしてくれ」

「わかった」

「そして二つ目は魔眼だ・・・そうだな・・・【解析眼】と【時止眼】と【ギアス】だ」

「とてつもないチートだな・・・まあいい・・・次だ」

「三つ目は無限の武器が欲しい。それとそれらを操る力もだ」

「そうか・・・ならこれだな・・・」

青年は銀の輪を出す・・・なにか不思議な感じがする・・・

「それは？」

「ああ、これは簡単にいうと倉庫だな、ドラ○えもんの四次元○ケツトみたいなものだ」

「ん・・・だがないが入ってるかわからないな・・・」

「そうか・・・ならこうしよう・・・」

青年が手を振りかざすと銀の輪に剣のアクセサリが大量にいつのまにかついていた。

「これでわかるだろ。出したいものがあればそれを想像しながら【シャメット (summons)】と唱えればでてくるぞ」

「そうかでは四つ目だ」

「言ってみる」

「顔だ、俺は頭がよくても顔が中の下だ。いじめがひどかった」

まあ、そのあとボコボコにしたがな（精神的に）

「そうかなら銀髪ロングのイケメンにしてやろう」

「いよっしやあー!!」

おっと声にだしてしまった・・・いままで俺をあぐだこくだ言っただ女子が今の俺を見たらどうなるか見てみたい・・・

「さて・・・五つ目はなんだ？」

「あつちに着いた時の家と金とだ。できればでかいほうで」

「では10億ほど銀行にふりこんでやる。家は金でどうにかしてくれ」

10億・・・すげえ・・・おっと・・・またキャラ崩壊しそうになつてしまった・・・

「というわけだ・・・ではいい人生を」

と言ったあと足元が黒くなりそこへ俺は落ちていった・・・

「ああー！！！！2期アニメまだ見てねええええええー！！！！」

今から何処行くのかわかってていつてるのかコイツは……

とある転生と学園都市（後書き）

書いてみた結果・・・駄作の予感・・・感想まっております。

〜主人公説明〜（前書き）

タイトルのとおり主人公の説明です

〜主人公説明〜

名前：上条龍夜^{かみじょうりゅうや}

歳：17

スキル（Cが平均として）

筋力：S

耐久：B

知識：EX

幸運：A

財力：EX+

能力：XXX

筋力：デコピンで人が2〜3m飛ぶくらい

耐久：人間の3倍ほど

知識：原作知識あり、前世の天才的頭脳をもっている

幸運：神からの転生によりそれなりに高い

財力：10億円

能力：超能力

【元素使い】

ありとあらゆる元素を扱える

【魔眼】

・解析眼

全てのものを理解することができる。使用時に目が赤くなる。

・時止眼

時間を止めてさらに動くことも出来る。(約5秒)

・ギアス

一人に一つだけ命令を下せる

【武器の輪】

おもいつく限りの武器が入っている。

～主人公説明～（後書き）

投稿は亀です・・・期待はしないでください・・・

とある原作前の人生目録

さて・・・転生をしたが・・・

最初はひどかった・・・きずいたのは羊水の中の時だ・・・
外から聞こえる親らしき声・・・

そんなこんなで1ヶ月ほど羊水の中・・・

つらかった・・・つらかったぞ・・・

出たときは感動で泣いてしまった。だが父親の顔を見てすこしびっ
くりした。

上条当夜だ。どう見ても上条当麻の父親だ・・・

もしかして俺は当麻？そんなでもってさらに1ヶ月・・・

俺の名前は龍夜、上条龍夜というらしい

我ながらいい名前だと思う。ナルシストだって？バカいうなあんな
のとは違うぞ。

まあ、そんなことはどうでもいい・・・

母乳って意外と薄い味だったな・・・

くそして2年後く

上条当麻が生まれた。

一応、俺は2歳だ。っていうか原作知識があいまいになってきた・・・
・
・
ほとんど寝て生活してるからかな・・・
まあ、一応たのしいものだ。体がめちゃくちゃ軽い。だが立てなかつた時は苦労した・・・
なんせずっと寝っぱなしだ・・・
当麻は幸せそうな顔していつも寝てるがいつまで続くのやら・・・

くそんなでもって14年後く

えっ？飛びすぎだって？

書くことねえし・・・

あつたとしても当麻をいじめから守ったり、俺のキャラが完全に変わったくらいだ・・・

今は学園都市で当麻と暮らしている。

ちなみに学園都市の銀行いったらいきなり10億とかびびった・・・

なぜか金がねえと思ったたらこういうことか・・・

あつ、暮らしてるといってもまだ寮に住んでいる。当麻のとなりだ。

たま〜に飯おごったり、金をあげてるが見ててこっちも不幸になり

そうだ・・・

解析眼でもって幻想殺し（イメージブレイカー）のこともわからない・・・

そんなでもって次回原作突入！！

とある原作前の人生目録（後書き）

短い・・・それしかいえない・・・

とある兄弟の原作突入

「はあ〜・・・なんだこの暑さは・・・」

俺は眠い+暑い中、これから起こるであろうことを原作を思い出しながら歩いていた。

いままでは暇だし能力とかいろいろ試していたが原作がこの7月21日が開始（多分）と思い出しそんなこともせずにかくわくしていたまらなかつたぞ・・・

それと俺は引越しをした。5LDKの大きい一軒家だ。

簡単に言うと、実験室、書庫、倉庫、寝室、空き部屋だ。

さらに言うと、実験室ではこの学園都市の科学を気に入りちよつと有名な学者となっている。

レーザー銃を作ったがとある4位くらいに危険だった・・・

だって俺の家の壁貫いたぞ・・・

鉄筋コンクリートじゃなくもつと硬い物だぞ・・・

まあ、なにかはしらないけど能力で作ったが・・・これなんだろうか・・・

さて・・・それはおいといてつぎは書庫だな。

魔術、科学に関する本がおいてあるがなんかオーラのものがでてるから結界張ったけどなんなんだあれ・・・

そんでもって倉庫は簡単に言えば薬品とか銃器だな。

作るのって楽しいし。あとは寝室だが、空き部屋はある作戦みたいなものがあるから聞かないでくれ。

さて・・・今は7時か・・・そろそろ当麻がインデックスにあつてるところかな・・・

さて・・・時間は飛んで夕方だ。
多分ここで当麻と御坂美琴が戦うはず・・・おっ、きたきた・・・

「だ〜!?! ついてくるな〜!」

「まちなさってば〜!」

「ぎゃ〜!?! 不幸だ〜!?!」

「まちなさっていつてんでしょ〜!?!」

あれ？こっちとんできてる・・・えっ？ちょ・・・怖い怖い怖い怖いアーーーーー！

「あれあつたたら死んじゃうだろうが！」

「アンタだったら大丈夫でしょ。それにこの時間帯なら誰もいないんだなこれが・・・」！？」

「誰よアンタ!？」

あゝ、原作どつりのこだな。どう言い訳しようか・・・？

「そこにいる当麻の兄だ」

「きよ!？兄弟!？・・・っていつかどうして無事なのよ!？」

「さあ〜てね。当麻、今日はお前とこで飯くっついていい?..」

「え？あ！いや、今日はですね。無理っというか・・・だめっというか・・・」

インデックスですね、わかります。

「あんた等・・・この学園都市第4位をバカにすんじゃないー!!」

「悪いけどこっちは第2位なんだよね」

「つか雷あぶね〜よ。分解して空にばら撒いたけどやっぱり怖いな・・・うん。」

さて・・・腹も減ったし帰るかな・・・

「えっ!?アレ・・・いない・・・」

ただいま空を走っております。

空気を固めて足場にしてるだけなんだけどね。

当麻の察めつけ・・・

解析眼で見てみたらルーンが張ってあったのをわざと無視したのは内緒だ。

つかこのごろ自分の能力を忘れそうだ・・・

とある兄弟の原作突入（後書き）

短い・・・神よ！俺に文才を！！
神なんていなかった。

とある始めの能力対決

さてと・・・そろそろ降りるか・・・
ルーンがいつぱい張ってあるがあえて無視しよう。

「はあ・・・びつくりした・・・」

「なんだ、このくらいでびびってたら困るぞ」

「えっ？なんで？」

「いや・・・なんでもない・・・」

つい本音がでてしまった・・・
まあ、ばれてはいないだろう・・・
当麻がルーンに驚いているが無視無視・・・
おっ、インデックスめっけ

「イ・・・インデックス!!」

さて・・・正直言うと当麻にあれこれ面倒なので実は寮の前で別
れている・・・

なぜかというとなら1対1じゃないと面白くないしな
当麻が落ちてきたらちよつとあいつをボコつとけば問題なしだ

あっ・・・落ちた・・・

一応危ないから空気でクッション作っとくか・・・

幻想殺しで無効化されたし・・・

さて・・・

「こんにちは、こんな所でなにしてんだ？赤服の男」

「はあ？人払いのルーン張ってるんだけど・・・もしかしてさっき幻想殺しで破られたか・・・面倒になったな・・・」

「はいはい、そんなのどうでもいいからさ。よくもうちの弟をやっ
てくれたね」

まあ、見てたんだけどね

「悪いね、君には寝てもらおうとうれいんだけどねっ！」　ポッ
！シュ！

炎がとんできたな、でも分解すれば・・・

「ふん・・・君、能力者か」

「まあ、そんな所だ」

「じゃあ、本気でいくよ！」　ポオオ！！

さっきより大きく完全にさっきと違う色の炎を飛ばしてきた。

「はいはい分解分解・・・」　シュ・・・

「効かないようだね・・・ここは逃げたほうがよさそうだ・・・」

「いや・・・逃げれないと思うけど・・・さて・・・終わった・・・」

ドサ

ステイルが倒れた。

あゝあ・・・髪がタバコで焦げてる・・・
ん？どうやったかかって？空気をあやつって一時的ショックを与えた
だけだ。

でもこれ相手がタバコとかで肺が弱ってることと30秒くらい相手
が激しい運動してないことが条件なんだよね・・・あつ、当麻が上
ってくる・・・こいつ背負って隠れないと・・・

「オイ！！魔術s・・・いねえ・・・あつ！インデックス！大丈夫
夫かつ！」

さて・・・俺は神崎との戦いまでファミレスで暇つぶしするかな・・・

こいつは公園のトイレにでも入れておくか・・・

また寝すぎた・・・急がないと・・・

「ってアレ？誰もいない・・・あっ・・・」

目の前でバトってました

とある魔術の幻想対決

今の状況・・・

目の前で弟がフルボッコされています。

あっ、当麻やばいマジやばい

参戦しないと・・・あっ！そうだ・・・アレを使おう・・・

「『賢者のローブ』」パアアア

さてと・・・今使ったのは『賢者のローブ』だ。赤と黒のデザインでフードが着いていて顔が見えないようになってる。コレを着ると暑くなったり、切れたりしないってことだ。簡単に言うと絶えず落ち着いてる状態ってことだ。さっき超能力で戦ったしこんどは魔術でいこうってわけだ。モチロン『武器の輪』装備で。

「貴方は誰ですか・・・」

きずかれた・・・つか顔怖い・・・めっちゃ怖い！

「そうだな・・・」

「どこの魔術師ですか？答えなさい」

「さあ？どつだろつ・・・」

「ふざけないください」

怖い怖いどうすっかな・・・適当に答えるかな・・・

「一人結社『赤銀輪』だ……」

「聞いたことないですね……」

あたりまえです

「誰であろうとかまいません……まずは貴方を倒します……七閃……」

『解析眼』発動……鋼糸は……理解……

「じゃあこれだ……『シャメット、次元刀』」

「なっ！」

これは次元を捻じ曲げる剣だ。切ったところに七閃が入り込み消えていった……
どこいくんだアレは…… まったく理解できない

「ならば……唯閃!!」

「『シャメット、巨人の豪手』」

二つ目く、たららたたら……おっとげふんげふん……
これは手袋だな。黒い色していて手の甲にはなんかついている……
これで殴ったら痛いだろうな……
つうわけで手で唯閃を掴んだってことです。

「では時止眼」

当麻は思った・・・

「さっきから起きているがタイミングがつかめない・・・」
という小さな不幸にであっていた。

「はあ・・・次なに起こるんだっけ・・・」

こっちもこっちで天才という男がバカになりつつある不幸が降りかかっていましたとさ

とある魔術の幻想対決（後書き）

武器の輪ができました

ここで質問です

だしてほしい武器募集中

期限なし！

感想もまっけてます

〜無限の武器の武器紹介〜

・次元刀

空間を切ることができる

・巨人の豪手

約1万度の火、10万ボルトに耐え
剣で刺しても貫けない代物
普通に殴ってコンクリートが散る

・無自押札

自分の生气、気配、声などを全て無に変換させる
使いすぎると影が薄くなる

・百刃棒

刀の刃だけを百本固めた棒
開放すると刀の刃が緩み攻撃範囲が広がる
長さは8メートル

・ジャックP1

謎の銃

弾が急所へ飛んでいく

昔、ジャックが使ってたものらしい ジャックって誰だよ

・死のオカリナ

効いてしまうと呪いにかかる

加減すればちょっとした腹痛や気絶ですむ

・雷切

雷を帯びた剣

とある最強の上条龍夜

「はあく……体いてえ……」

龍夜は全身筋肉痛で布団で横になっていた。

「次は……なんだっけなあく、たしか記憶がなんちゃらこつちやら……」

転生してから10年以上たった今。原作のことなんてすっかり忘れていた。そのためこれから起こることは簡単には予知できなくなっただのだ。

「今は……27日の5時か……寝るかな……」

.....

「はっ！……こいつは……?」

上条当麻が27日の日付が変わるところ目を覚ました。

そしてステイルと神崎にインデックスの記憶を消すことを話された。

インデックスの記憶消去まであと25分……

.....

「思い出した思い出したあああああ！……！」

上条龍夜はパニック状態であった。

汗だらけの服を着替え、どうすればいいかを考えながらなぜか当麻の寮へ向かっていた。

「ちがったあああ！……やばいぞやばいぞ！」

きずいたのか慌てて子萌先の家へ走っていった。

.....

・ ・ ・ ・ ・

「着いた．．．今、0時6分前．．．いくか．．．」

龍夜は階段を上がっていく．．．

ピカッ！

「うわっ！」

遅かったのかインデックスの自動書紀が起動してしまった。

俺は空を見た。

「ここででていいたらダメだよな．．．でていてももうまにあわない．．．ここは当麻にまかせるか．．．よくよく考えたら当麻の記憶があつたら物語がおかしくなるよな．．．」

龍夜はきまっている歴史を感じていた。

そして自分がイレギュラーな存在だと悟った．．．

自分はここへ転生してよかったのか．．．

ステイル達が騒いでる．．．当麻の記憶がなくなったようだ．．．

さて．．．イレギュラーは帰るとしよう．．．

とある最強の上条龍夜（後書き）

我ながらつまんない・・・
やめようかな・・・

いめん、まじすまん

この小説は終了しました頭の片隅からゴミ箱へすててください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3344o/>

とある元素の上条龍夜

2011年2月7日00時40分発行